

令和元年度 美術学科FD・SD研修会

カリキュラムマップをもとに初年次教育・次年度のカリキュラム体系を検証する。

日 時：令和元年11月19日（火）14：30～16：30

講 師：美術学科 権田宜子 新井浩

参加者：東田 権田 堀 本山 新井 大谷 和田 大場

前回、FD研修において議論を深めた学習成果の可視化の内容を踏まえ、まず自己点検室及びIR委員会担当の権田、新井より話題提供を行った。

- ① 次年度より担当者が変更する基礎教養科目の内容や、学生のアンケート結果、シラバスの内容等の説明（権田）
- ② 学修評価シートをもとに、美術学科の学生に身につけて欲しい能力と授業内の取り組みを検討した（新井）。

続いて、美術学科学生が身につけて欲しい資質と2年間の体系的な学びについてディスカッションを行った。

美術学科が掲げる（コミュニケーション／傾聴・文章力・計画性・働く・プレゼンテーション）といった力を育むために、どの授業で・どの時期に・誰が担当するのかを確認した。今回のFD研修を通して、授業ごとの内容だけでなく、相互に作用しあい2年間でどのような順番で身につけさせていくかということを変更して共有できた。以下はディスカッションされた主な意見である。

○基礎教養—プレゼンテーション演習—キャリアセミナーといった授業の連動について

○主に基礎教養では文章力、基礎学力と一般常識に焦点をあて、キャリアセミナーではマナー面を、プレゼンテーション演習ではより体系的にプレゼンできるよう指導をすすめる。

○コンピュータ表現演習の習熟度別指導

○2年後期に履修できるビジネス系科目（サービス実務・プログラミング演習）などの効果について

○コミュニケーション・プレゼンテーション・文章力・マナー・基礎学力と一般常識を分けて考え、特に学生の文章力については、身につけていないと感じる教員が多く文章力のつく取り組みを各授業でも取り入れていくことを確認した。

○グループワークに参加の難しい学生がいるため、取り組み自体を控える場面があるが、教員が2人体制などすることで運営が非常に円滑にまわる。ビジネス実務学科ではコンピュータ系の演習には実習助手がつくが、美術はそれが無いため取りこぼしがあるように感じる。

○大谷よりweb演習のように、ティーチングアシスタントを単位化できないか、という提案がなされた。シャイニーリーダーの取り組みからも、責任を与えられることでやりがいを感じ、成長する学生の姿がみられた。次年度のカリキュラムに加えるには時間が非常に少ないが、模索し実現できるようにしたい。

